

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム理念について昨年ご指導があり、指摘頂いた表現を作り直しました。地域の人々との交流を深め地域に開かれたアート園となるようにより一層努めてまいります。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念と介護理念を共有しサービス提供の場に理念を掲げ、常に再認識し個々の望む日常生活を支援し、個人に合わせたケアに取り組んでいます。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月老人サロンに参加させて頂いたり、運営推進会議には、地域役員、民生委員、包括センターの方々に参加して頂き、意見交換を行っています。家族会や家族便り、面会時等で活動内容を報告しています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎月、町内の清掃活動や、老人サロンに参加している。昨年の秋祭りには中学校の吹奏楽部や、近隣・地域で活動されている和太鼓(飛龍太鼓)の方々をお呼びし、演奏して頂きました。7月の大雨で園が浸水被害にあった時に民生員さんより、おにぎりを差し入れてくださいました。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園のバザーに出掛けたり、地域のバザーに手作り(利用者の)作品を出品するなど、地元の人々との交流を深めています。地域の敬老会にも毎年参加させて頂いている。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設見学という事で地域の方を招き、施設の紹介、園生活の様子を見て頂く事で、地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合いの場を設け取り組んでいる。地域の老人会で行われる清掃活動に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットの外部評価委員を中心に、前回の評価を活かし、改善計画シートを作成し、各ユニットへ回覧を呼びかけ、又、申し送りノートにて、全職員が認識できるよう、具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催している運営推進会議で活動内容や、外部評価の結果、取組み状況等報告している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括センターが近くなり、情報交換や、相談をしやすくなった。また、市役所の方へ出向き、地域密着型グループホームとしての活動についてと、自然災害時の園の対応について、質問し、助言等頂きました。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	教育委員を中心とし、分りやすく資料作成し、全スタッフに日常生活自立支援事業や、成年後見制度について学ぶようにしている。資料は、いつでも見れるよう、各フロアーにてファイルしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会で取り上げ、スタッフ全員が虐待について学ぶようにしている。又、資料について、虐待とはどういうものかを具体的に挙げ、分りやすくし、園内でも虐待が見過ごされないよう、防止に努めている。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に料金面や医療体制、また事業所のケアに対する方針を伝え、重度化や看取りについての要望を伺っている。家族や利用者の疑問点等を尋ね、説明を行い納得、理解して頂くようにしている。また、園での対応可能な範囲についても説明している。利用者の状態変化で園生活に不都合が生じた場合は家族と今後の対応を相談し進めるようにしている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満・苦情などは個別にお話を聞くようにしている。民生員の方に苦情係りをお願いし又、施設長も折にふれ顔を出され、利用者方のお話を聞く機会があり、出た意見は、各ユニットで話し合いをし、今後のケアに活かせるよう努めている。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	スタッフより家族便りにて、暮らしぶりや健康状態など利用者様の写真を付けて報告している。金銭管理については、毎月の使用金の用途や、残高を書面にて報告し確認印を頂いている。職員の異動時には、家族便りにて報告し、エレベータ内に写真と名前を掲示している。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、家族等が意見や不満、苦情など表わせるようにしている。家族会時に意見質問、要望等出して頂き、面会時にも職員の方から、何か無いか問いかけるようにしている。苦情があった場合、苦情処理係りを中心に各フロアーで話し合いの場を作り改善へ向け努力している。苦情に対する改善方法など書面に起こし今後のケアに反映できる様にしている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全体申し送りを実施し、施設長や他フロアーのスタッフと意見交換できる機会がある。又、管理者も通常の業務に参加しており、スタッフの意見や、提案を聞ける状態にある。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況や要望に応じて、職員間で話し合い勤務調整をしている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動以前に手伝いに行き、利用者個々の支援を学んだり、顔馴染みになる様にして、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	募集は、性別や年齢等を理由に排除せず、年齢が高くても健康であれば採用するようにしている。現在も、男性、女性の職員、幅広い年齢の職員が在職しており、採用後も外部研修や勉強会をし、その能力を発揮出来るよう配慮している。		
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	全職員に勉強会を通して、利用者に対して、人権をそんなふうするようにより理解を深めるように、取り組んでいる。		
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を段階に応じて、様々な研修を受講できるようにしている。又、参加報告書を作成し、全職員が閲覧できる様にしている。新人職員に対しては、管理者の指示のもとユニット職員全員で、段階的(コーチング・ティーチング)を取り入れ、育成に取り組んでいる。		
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加する事で、同業者と交流する機会があり、意見交換を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設長が時折、現場に來られ、職員の様子などを把握するように努めてあり、また、個人的に相談や要望等を聞いて頂き、よりよい解決に向け助言等頂いている。		2階が無くなり、職員の休憩室が使えなくなったため、休憩室の検討をしていきたい。

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績を把握し、全職員が各委員を受け持つ事で、向上心を持って働き続けられるよう取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に、施設長が何度も自宅訪問をしたり、面談を行うことで、今までの生活状況を把握し、信頼関係を作る様にしている。本人との会話の中から困っている事、不安な事、求めている事などを理解し、受け入れられるよう努力している。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談の前に施設長が自宅訪問をした際に、本人とは別に家族などが困っている事、不安な事を理解し事業所としては、どのような支援(対応)が出来るか入居予定のユニットに持ち帰り、職員間でよく話し合う機会を持ち、受けとめる努力をしている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の必要としている、支援んを見極め、当園で出来ないサービスに対しては、他機関のサービス(リハビリなど)利用に結びつけ対応に努力している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来られた時に、家族・本人・入居者・職員と一緒に過ごし、場の雰囲気を味わって頂けるようお茶や、おやつをお出ししている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の中で、本人の得意分野が活かせるような場面作りに心掛けています。利用者の昔話で、職員も笑顔になったり、「眠たいでしょう」など、心配して下さったりと、支えあう関係を築いている。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族便りや、電話で園で行われる行事等、事前に参加を呼びかけ、家族と共に、楽しい時間を過ごしている。又、面会時に、家族との外出の時間を楽しんで頂く。		
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常の様子や健康状態などの報告を書き、家族便りを作成している。本人に年賀状や暑中見舞いを書いて頂いたり、電話をかけて頂くなど支援し、より良い関係が築いていけるよう支援している。		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、外泊・外出をされ、馴染みの人と会ったり、場所に行かれています。又、馴染みの方に、電話や手紙が出せるよう支援している。		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然にコミュニケーションが取れるよう、カラオケや、懐メロ等のレクリエーションの時間を設けている。利用者の中でお世話が好きな方がおられ、困っておられる方に、声をかけて下さったり利用者同士の良い関係が出来ている。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	新しい生活に慣れられても、今までの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの支援内容や、情報などを提供し、利用者や家族のダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や、日常の関わりの中で、その方の思いや、意向を、把握するよう努めている。困難な場合は、家族から情報を得て検討している。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に施設長が、何度も自宅や、病院を訪問する事でこれまでの生活歴や、暮らし方を把握するようにしている。又、他機関からの情報提供書でこれまでのサービスの利用の経過等の把握に努めている。入居後も本人や家族に話を聞きながら、情報収集に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の日常の様子や変化等、一日の過ごし方を個別日誌に記録する事で、現状を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや、要望を聞き、反映させるよう、職員全員が日々の関わりの中で気づいたことや、意見を気づきノートに書きこんだり、話し合いの場を持ち、利用者本位の介護計画を作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ごとに評価をする事で、現状をより早く、把握できる様にしている。変化がある時は期間途中であっても関係者と話し合いをし、現状に合った計画を作成するよう努めている。(退院後1ヶ月以内に見直しをしている。)		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や健康状態、本人が言われたことや気づいた事など、個別記録に記入し、全職員が情報を共有出来るようにしている。記録を基に、見直しや評価に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の付き添いが必要な入院の時でも、家族の状況や要望に応じ、医師・家族と連絡を取りながら、スムーズに入院・治療・退院が出来るよう支援している。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	老人サロンに参加、書道展に出品している。又、郵便局に作品を展示させて頂いている。中学校の職場体験学習の受け入れを行っており、当園の行事にも参加して頂いている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	紙おむつの給付、訪問理容や整形外科ヘリハビリ(送迎つき)の利用を支援している。NPO法人の歯科に往診して頂いている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂いている。不参加の時は、議事録を提出している。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	面接時に当園の協力医を説明し、家族や本人にかかりつけ医を伺い、選択して頂いている。又、緊急時には、総合病院に紹介して頂き受診できる体制を整えている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医を受診し適切な診断や治療を受けられるよう支援している。また、職員が相談したり、助言を頂いている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の日常の状態を良く知る看護職員を配置している。健康面や医療面での相談、助言、対応など支援している。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に、利用者の普段の状況や支援の方法などの情報を、医療機関に提供し安心して過ごせ、スムーズに治療が行われ、出来るだけ早期に退院できるよう支援している。又、家族や医療機関と連絡を取り、事業所が対応可能な段階で退院できるよう、情報交換や相談に努めている。		
49	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の面接時に、終末期に対する考えや意向を本人や家族に伺っている。本人や家族の意向を尊重しながらも、終末に対する方針を家族、かかりつけ医、職員で繰り返し話し合い、状態に変化があるごとに、本人の思いや、職員の不安などに注意し、かかりつけ医と相談したり助言を受けながら、全員で方針を共有している。		
50	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と職員が密に連絡をとり、安心して終末期を過ごせるよう、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。又、利用者の気持ちの変化に、気をつけ「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医と一緒にチームとして、支援に取り組んでいる。		
51	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの支援内容など、情報提供書を作成し医療面でもかかりつけ医より、情報提供書を作成してもらい、情報交換をしダメージを防ぐようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	教育委員より接遇をテーマに資料を作成し、一人一人の誇りや、対応、言葉かけなどプライバシーを損ねる事が無いよう、勉強会をしている。又、記録等の個人報告の扱いにも気をつけるよう、全職員に、プライバシー確保の徹底に努めている。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事準備前には、何が食べたいか、希望を聞き入れるようにしている。水分補給前にも、その人に合わせた説明を行い、選んで頂く用に自己決定の支援をしている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間の制限は設けておらず、こちらから提案はするがその日の体調や気分に合わせてラジオ体操をされたり、編み物をされたり、臥床されたりと、一人ひとりの希望と生活習慣にそって暮らせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お肌の手入れやお化粧、ヘアカラー等、その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るよう支援に努めている。訪問理容サービスを利用されている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る力に合わせ、職員と一緒に根取りや、皮むき、配膳といった準備や、食事、片付け等している。又、一人一人に合った食べる力に合わせ、細かく切ったりして食べやすいよう支援している。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望があれば、一人一人の状況に合わせて、職員と一緒にスーパーに出かけ、好みのものが購入できるよう支援している。現在喫煙している方は、いらっしゃるが、決められた場所で喫煙して頂くようにしている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表に記録し、個人の排泄パターンや習慣が分り、声掛けや誘導で失敗を減らし、気持ち良く排泄できるよう支援している。夜間に排泄の失敗が多い方は、時間を決めて声をかけ、トイレ誘導を行っている。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在入浴日(曜日、時間)が決まっているが、入浴日には、好みの湯加減に調節したり、タイミングに合わせ一人ひとりのペースで入浴して頂けるよう支援している。	○	いずれはいつでも入浴出来るようになっていきたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就床時間、起床時間を決めておらず、又、個人の生活習慣や、状況に応じ、昼間でも休息できるよう支援している。日中活動的に過ごして頂き、夜間安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、音楽、編み物等の役割や楽しみごとを個々の生活歴や出来る力を活かせるよう支援している。又、外出(買い物・散歩など)する事で、気晴らしの支援をしている。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が買い物に同行し、個人の力に合わせ、ご自分で支払われたり、職員が支払ったりしている。家族の了解を得て、手元に少額のお金を持たれている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望に沿って、買い物や散歩、受診できる様にしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	各ユニットで利用者全員と職員で植物園に行ったり、希望者を福祉施設のイベントを見に出かけたり、全ユニットで花見に行くなど、外出の機会を作り支援している。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたり、電話をかけて下さいと訴えられたときは、職員がかけ、本人と変わるようにしている。手紙など、希望があれば葉書や便せんの準備をし、やり取りができるように支援している。暑中見舞いや年賀状を書いて頂くなどしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の部屋やフロアで、お茶をお出しし、ゆっくりと時間を気にされる事なく過ごしていただくようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年勉強会で取り上げ、全職員が正しく理解できるよう、取り組んでいる。教育係りが資料を作成し、いつでも閲覧できる様にし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵をかける事は無い。玄関は日昼、手動にしている。利用者が出ようとされる時は、止めるのではなく、一緒にでかけたりさりげなく声掛けし、安全面に配慮し鍵をかけないケアに取り組んでいる。又、迷子になられた時には連絡して頂くよう、近隣に案内を掲示している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に職員が一人一人の所在や様子を把握し、見守りや声掛けをしながら、安全に配慮している。夜間は定期的に巡視を行い、安全確認をしている。日頃より利用者のプライバシーに配慮し、訪室時も声を掛けてから、入室するようにしている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミは常に置いてあり、個人の状態や力に合わせて、使用できるように支援している。包丁は夜間帯、専用ケースに入れ場所を変え保管している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬前に何度も確認するよう一人一人の写真付きのパスケースに薬を入れ、誤薬防止に取り組んでいる。ヒヤリハット、事故報告書を作成し、各フロアに回覧し、情報を共有し、事故防止に取り組んでいる。	○	警察の方の指導により、下着に氏名と園名(アート園)と記名するよう取り組んでいる。

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が対応できる様に、蘇生法や、AEDの使用方法的研修を実施している。又、外部研修(実技含む)に参加している。又、応急手当や初期対応など勉強会で定期的に学んでいる。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定しての避難訓練を利用者も参加して頂き行っている。地域の方の協力で、避難経路、場所の確認が出来、防災マップを掲示している。災害時には、地域の方に協力を得られるよう民生員さんを通して、働きかけている。	○	地震や水害時の避難方法、対処法など身につけるよう取り組んでいきたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居前の面談時に、抑圧感のない生活をして頂く事を心がけており、その際、起こりうるリスクについて具体的に例を挙げ、説明し、理解して頂いている。又、職員間で話し合い個々の状態を把握し、起こりうるリスクを想定し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい支援をしている。又、家族に対しても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定実施と、様子観察で体調の変化などの発見に努めている。体調変化や、異変の際には記録し、かかりつけ医へ連絡、受診などの対応に結びつけている。又、受診内容を家族に報告すると共に、記録、申し送りをする事で、情報を共有している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を整理し、ファイルし職員が内容を把握できるようにしている。状態変化が見られたら、詳細に記録し、症状の変化の確認に努め、かかりつけ医へ報告し、指示を仰ぐようにしている。薬セットの段階から何度も確認するよう薬入れに利用者の写真と名前を記入し、誤薬防止に努め、飲み込まれるまで服薬支援をしている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表に記録する事で、一人一人の排泄状況を把握し、便秘気味の方には、牛乳や芋類といった食品を、又、ラジオ体操や散歩、腹部マッサージを行うようにし、自然に排便できるようにしている。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、利用者の状態に合わせた介助をするようにしている(見守り、一部介助など)。義歯の方は、就寝前にはずして頂き、洗浄剤を入れた水につけて頂き、清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、職員が利用者一人一人の情報を共有し、状態や力、習慣に応じ、食べやすくしたり、好きな物を提供する等の工夫をしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について、勉強会で学習し、全職員が予防や対策に努めている。インフルエンザの予防接種を利用者と全職員が毎年受けている。傷があるものは調理をしない、ペーパータオル使用を実行している。感染予防マニュアルを作成している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買いだめをしないようにし、購入後すぐに冷蔵庫へ保管するなどしている。冷蔵庫の点検、整理、掃除を行っている。調理器具など、必ず洗ってから使用、まな板も、魚肉野菜用と分けている。まな板・布巾は毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前や園の周囲に季節の草花を植え、又、どなたでもひと休みして頂けるように、ベンチを設置するなど工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関内部と各フロアーには、季節に合わせた飾りや、利用者の作品を展示している。又、日差しの強い時間には、カーテンを閉めるなどし、その時々で状況で居心地よく過ごせるよう努めている。		

グループホーム アート園

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は区切りのない一体化した居間になっているが、食堂のテーブルやソファの配置によってテレビや雑誌を見たり、居眠りされたり、お話されるなど、思い思いに過ごされている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と、相談し、家族やペット写真を飾ったり、使い慣れたタンスや布団、お仏壇など置いていただき、本人が心地よく過ごせるようにしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床された後、居室の換気をしている。エアコンの温度は外気との差が±5 位になる様にしている。利用者のその時々に応じてエアコン調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、フロアなど、手すりが設置され、バリアフリーになっており、玄関スロープ、障害者トイレがあり、車いすの方でも安全に生活が出来るようになっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個室のドアに名前を貼ったり、必要な目印や矢印を貼るなどしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りや、ベランダに花や野菜を植えており、水やり等の活動ができ又、季節を楽しんだり、成長を見ていく事で、喜びを感じれるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム アート園

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

老人会の掃除や、サロン、バザー等に積極的に参加し、事業所として、地域の方々とより深く交流を持ち、園で生活される方々を知って頂き、理解して頂くよう努力しています。ホーム理念を基に、より開かれたアート園となるよう、日々取り組んでいる。事業所として、地域の方々に貢献できることを今後も力を入れ取り組んでいきたい。